

2023年コレクション展 | 2023年1月21日(土) - 7月23日(日)

前期：1月21日(土) - 4月9日(日) 後期：4月29日(土) - 7月23日(日)

- ◇ 4月10日(月) - 4月28日(金)は閉室し、一部展示替えを行います。
- ◇ 「《特集2》中国明清の書画篆刻—梅舒適コレクションの精華—」は前期のみの開催で、メンテナンス休館中(2月20日(月) - 27日(月))に展示替えを行います。

兵庫県立美術館では、前身の兵庫県立近代美術館(1970年開館)から収集活動を続け、現在10,000点を超える作品を収蔵しています。2023年は1年を3期に分け、それぞれテーマを設けて幅広い時代と分野の作品をご紹介します。2023年コレクション展Ⅰは、近現代の収蔵作品の中から特に「リアル」と「フィクション」の間に位置する作品を展示する「《特集1》虚実のあわい」、そして、篆刻家・梅舒適が収集した文物の中から中国明・清時代の作品をご紹介します。「《特集2》中国明清の書画篆刻—梅舒適コレクションの精華—」(前期のみ)の2本立てで構成します。

展示構成：《特集1》虚実のあわい [常設展示室1・2・3・4・5]
《特集2》中国明清の書画篆刻—梅舒適コレクションの精華— [常設展示室6] (前期)
小磯良平記念室
金山平三記念室
近現代の書 [常設展示室6] (後期)

《特集1》



[章構成]

- I リアルの追求/リアルへの脱臼
- II 虚実の混交①—現実へのまなざし
- III 現実と改めて「出会う」—「もの派」の作家たち
- IV 虚実の混交②—次元を超えて

<関連イベント>

- (1) 学芸員による解説会
2月18日(土)、4月9日(日)、5月20日(土)
いずれも午後3時より(約45分)
レクチャールームにて(定員50名)、聴講無料・先着順
- (2) こどものイベント ※当館Webサイトをご覧ください。



① 西山美なコ《ハ〜イ わたしエリカ♡》1992年
令和3年度 大和卓司氏遺贈記念収蔵 ©Minako Nishiyama

《特集2》

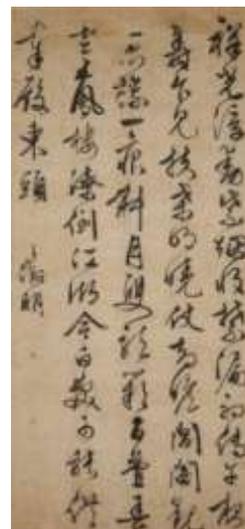
中国明清の書画篆刻 梅舒適コレクションの精華

From Ming to Qing: Chinese painting,
calligraphy and seal carving in the BAI Joteki Collection

<関連イベント>

- (1) KEN-Vi スペシャルトーク
「梅舒適コレクションの精華を見つめて」
講師：中村伸夫氏(筑波大学名誉教授、日本書芸院副理事長)
3月5日(日)午後2時より(約90分)
午後1時30分より開場
ミュージアムホールにて(定員110名)、聴講無料・先着順・要観覧券
「芸術の館友の会」会員優先席あり
- (2) 学芸員による解説会
1月28日(土)、3月18日(土)
いずれも午後3時より(約45分)
レクチャールームにて(定員50名)、聴講無料・先着順

- ② 文徵明《行書午門朝見詩》
明時代(15~16世紀)
梅舒適コレクション



《特集1》虚実のあわいの展示構成と見どころ 【常設展示室1・2・3・4・5】

ギリシャ神話のピュグマリオン伝説では、自ら彫刻した女性像に恋をしたピュグマリオンが女神アフロディテに祈り、像が生きた女性になったという物語が伝えられています。この伝説にあるように、古来より美術作品は虚構と現実のあわいをゆれ動く側面があったといえます。

特集1では、当館の近現代の作品の中でも「リアル」を追求しながら同時に「フィクション」であろうとする、またその逆に「フィクション」でありながら現実世界の在りようを如実に表す、といった虚実のあわいに位置する作品を展示して、その多様な表現をご紹介します。

また、本特集は2021年度（一部2022年度）に「大和卓司氏遺贈記念収蔵」により加わった作品群から、これまでに公開していなかった作品をご紹介します機会となります。新たに加わった現代美術作品を交えて、当館のコレクションをご覧ください。

I リアルの追求／リアルへの脱臼

絵画や彫刻で写実性を追求する時、それは一般に、フィクションの世界である作品に現実を写し取ろうとしているのだといえます。しかし、いつしか現実の似姿であることを超えて、描かれたモデルの生き様と存在そのものが立ち現れてくるような作品があります。また一方で、現実を写し取っているようでいて、現実からの意図的な「ズレ」を内包する作品も見られます。（木下晋、東影智裕、木下佳通代、井田照一ほか）



③ 東影智裕《侵食I》2013年
令和3年度 大和卓司氏遺贈記念収蔵



④ 木下佳通代《UNTITLED》1976年
平成21年度駒田哲男・楊子氏寄贈
※前期展示

II 虚実の混交①－現実へのまなざし

フィクションとして世界観を作り込んだ作品の中に、現実に通じる回路が内包されている、或いは、ドキュメンタリーとして撮影された映像や、客観的事実であるかのように振舞う年表の中に、記憶や記録が上書きされることによってフィクションが紛れ込む。本章では、そのような形でリアルとフィクションが^{ないま}交ぜになった作品を展示します。それらは現実世界の側面や人間の性（さが）をありありと表しています。（西山美なコ、高橋耕平、森村泰昌ほか）



① 西山美なコ《ハ〜イ わたしエリカ♡》1992年
令和3年度 大和卓司氏遺贈記念収蔵 ©Minako Nishiyama

Ⅲ 現実と改めて「出会う」-「もの派」の作家たち

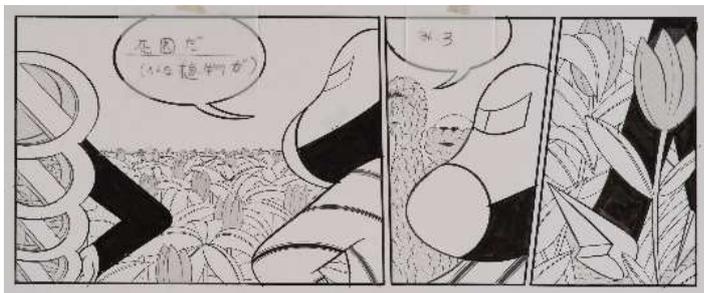
「もの派」は、石や木片などの自然素材、或いは縄やパイプといった何気ない「もの」を、ほぼ手を加えない状態で空間に提示した、1960年代後半から70年代にかけての動向です。そこでは先入観や決定済みの意味を通してではなく、「もの」と「もの」、「もの」と空間や、それを見る人との関係を問い直すことによって、あるがままの世界を開示することが目指されます。(菅木志雄、李禹煥ほか)



⑤ 李禹煥《関係項》1983年 山村コレクション
昭和61年度山村節子氏寄贈 ©Lee Ufan

Ⅳ 虚実の混交② - 次元を超えて

2014年に当館で開催した「美術の中のかたち」展のために描かれた横山裕一のネオ漫画〈ふれてみよ〉シリーズでは、当館が所蔵する彫刻作品が漫画のキャラクターとして、或いは漫画の中に風を起こすものとして(ジム・ダイソン《植物が扇風機になる》)登場します。そこでは、我々と地続きの3次元世界と描かれた2次元世界の間を、立体作品が自由に行き来します。本章前半では〈ふれてみよ〉シリーズとそこに登場する彫刻作品が再び一堂に会します。後半は、日常的なモチーフを意図的にズラして見せる立体作品等をご紹介します。(横山裕一、ジム・ダイソン、ジョアン・ミロ、林勇気ほか)



⑥ 横山裕一《ふれてみよ①〈花園〉》2014年
令和3年度 大和卓司氏遺贈記念収蔵
※前期展示

《特集 2》 中国明清の書画篆刻—梅舒適コレクションの精華— の見どころ 【常設展示室 6】（前期）

特集 2 では、戦後日本を代表する書家・篆刻家である梅舒適^{ばいじよてき}（1916～2008、本名：稲田文一）が独自の金石研究に基づく慧眼で収集した文物のなかから、中国明・清時代の優品約 90 件を紹介します。

コレクションは明代中期の文人・文徵明（1470～1559）にはじまり、清代中期に揚州を舞台に活躍した書画家たち・揚州八怪、中国最後の文人と称される呉昌碩（1844～1927）にまでおよび、書・画・篆刻を網羅している点に大きな魅力があります。

初の大規模な公開となる梅舒適コレクションの精華を、心ゆくまでご堪能ください。



⑦ 羅聘《墨梅図》
清・乾隆 48 年（1783）
梅舒適コレクション
2 月 28 日（火）から展示



⑧ 蒲華《富貴図》
清時代（19～20 世紀）
梅舒適コレクション



⑨ 呉昌碩《「美意延年」白文方印》 中華民国 9 年（1920） 梅舒適コレクション

特集以外の展示

小磯良平記念室

神戸生まれの小磯良平は、巧みな具象表現によって多くの人物画を生み出しました。それらの作品は、モデルを目の前にいるかに思わせる一方で、筆さばきや小物、ポーズなど、端々に画家の意図を感じさせます。本展では、小磯が手掛けた写実的な人物画、肖像画を中心に、対象を克明に描く小磯のまなざしを映す作品を展示します。

金山平三記念室

金山平三は、その生涯の多くを写生旅行に費やした旅の画家です。特に出身地である神戸や、大石田、下諏訪などは、画家が時をおいて何度も滞在し作品を制作した土地です。これらを描いた風景画は、その土地自体の移り変わりとともに、金山自身の変化をも含んでいます。本展では、金山の風景画を主なたよりに、様々な時間軸を組み込んだ作品の変遷をたどります。



金山平三《梨咲く頃（大石田）》1917-1934年
金山らく氏寄贈

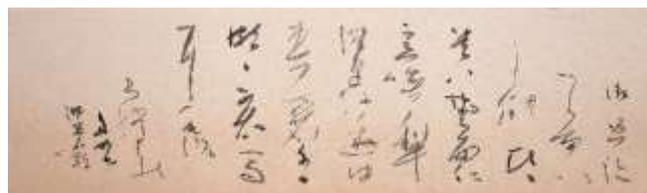
近現代の書 【常設展示室 6】（後期）

常設展示室 6（後期）では「近現代の書」として、当館蔵の明治から平成までの書作品をご覧ください。兵庫県は多くの著名な書家を輩出し、現在もなお書道が盛んな地域です。近現代の書家たちは、伝統を継承しつつも、それぞれ新たな表現を模索しています。漢字や仮名、前衛書、そして時に絵画や篆刻とも一体となりながら表現された、多彩な書の世界をお楽しみください。

※6月12日（月）に一部展示替えを行います。



上田桑鳩《啼鳥》1968年 昭和58年度飛雲会寄贈



深山龍洞《仏足石歌》1975年 昭和57年度深山静子氏寄贈

開催情報

■開催情報

- 展覧会 2023年コレクション展Ⅰ
 会期 2023年1月21日(土)～7月23日(日)
 前期：1月21日(土)～4月9日(日)
 後期：4月29日(土)～7月23日(日)
 ※4月10日(月)～4月28日(金)は閉室し、一部展示替えを行います。
 ※「特集2 中国明清の書画篆刻—梅舒適コレクションの精華—」は前期のみの開催で、メンテナンス休館中(2月20日(月)～27日(月))に展示替えを行います。
- 開館時間 午前10時～午後6時(入場は閉館の30分前まで)
 休館日 月曜日(ただし7月17日(月・祝)は開館、翌18日(火)は休館)、
 2月20日(月)～27日(月)(メンテナンス休館)
 会場 兵庫県立美術館 常設展示室(1階、2階)
 主催 兵庫県立美術館
 協賛 公益財団法人伊藤文化財団、**サフラティタワー神戸**(株式会社ハーフ・センチュリー・モア)、
 兵庫県立美術館「芸術の館友の会」

■観覧料

	当日券	団体料金	特別展とのセット料金
一般	500円	400円	300円
大学生	400円	300円	200円
高校生以下	無料	無料	無料
70歳以上	250円	200円	150円
障がいのある方(一般)	100円	100円	50円
障がいのある方(大学生)	100円	50円	50円

- ◆ 障がいのある方1名につき介護の方1名は無料です。
- ◆ 一般以外の料金には証明できるもののご提示が必要です。
- ◆ 毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団の協賛により無料となります。
- ◆ 団体(20名以上)でご鑑賞いただく場合は事前のご連絡をお願いします。

■交通案内

- ・ 阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から徒歩約8分
- ・ JR神戸線灘駅南口から徒歩約10分
- ・ 阪急王子公園駅西口から徒歩約20分
- ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29、101系統)にて約15分、「県立美術館前」下車すぐ
- ・ 地下駐車場(乗用車80台収容・有料)

※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください。

※団体バスでお越しの場合はバス待機所のご予約をお願いします。



「2023年コレクション展 | 」 広報画像申込書

兵庫県立美術館 企画・広報担当 宛

e-mail : press@artm.pref.hyogo.jp / FAX : 078-262-0903

ご希望画像にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙を e-mail または FAX にてお送りください。
申込確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。



① 西山美なコ《ハ〜イ わたしエリカ♡》1992年 令和3年度 大和卓司氏遺贈記念収蔵 ©Minako Nishiyama



② 文徵明《行書午門朝見詩》 明時代 (15~16世紀) 梅舒適コレクション



③ 東影智裕《侵食 I》2013年 令和3年度 大和卓司氏遺贈記念収蔵



④ 木下佳通代《UNTITLED》1976年 平成21年度駒田哲男・楊子氏寄贈



⑤ 李禹煥《関係項》1983年 山村コレクション 昭和61年度山村節子氏寄贈 ©Lee Ufan



⑥ 横山裕一《ふれてみよ①〈花園〉》2014年 令和3年度 大和卓司氏遺贈記念収蔵



⑦ 羅聘《墨梅図》 清・乾隆48年 (1783) 梅舒適コレクション



⑧ 蒲華《富貴図》 清時代 (19~20世紀) 梅舒適コレクション



⑨ 呉昌碩《「美意延年」白文方印》 中華民國9年 (1920) 梅舒適コレクション



⑩ 展覧会ポスター

● 貴媒体の情報をご記入ください。

- 媒体名 (番組・雑誌名等) _____
- 媒体種 : 新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB・その他 (_____)
- 掲載・放送予定日 : _____ 参考 URL _____
- 原稿確認予定日 : _____
- ※WEB 掲載の場合、いずれかに○をつけてください。 : コピーガード対応 可・不可 _____

● 申請者の情報をご記入ください。

- 貴社名 : _____
- 所在地 : 〒 _____
- ご担当者名 : _____
- メールアドレス : _____
- 電話番号 : _____

- 読者・視聴者プレゼント用招待券 : _____ 組 _____ 名分を希望
- ※ (最大 5 組 10 名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです)

【 画像使用に際しての注意事項 】

- 「作家名」「作品名」「制作年」「展覧会名」「所蔵先」「クレジット」などを明記してください。
- 作品画像の加工 (着色、トリミング、文字載せなど) はできません。
- 基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画・広報担当」までお送りくださいますようお願いいたします。
- 掲載媒体を 1~2 部、もしくは URL、同録 (DVD、CD) を「企画・広報担当」宛にお送りください。
- 画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます

兵庫県立美術館 取材申込書

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、
取材希望日の **3営業日前まで** にメールまたはFAXにてお申し込みください。

メール : press@artm.pref.hyogo.jp
F A X : 078-262-0903

お申込日 年 月 日

<< 取材内容 >>

希望日時	第1希望	年	月	日 (曜)	時	分	～	時	分
	第2希望	年	月	日 (曜)	時	分	～	時	分
	第3希望	年	月	日 (曜)	時	分	～	時	分
希望場所									
企画内容									
カメラ撮影	<input type="checkbox"/> あり (スチール 台 ムービー 台 三脚・脚立 台)								
	<input type="checkbox"/> なし								
取材人数	人								
取材時の代表者名									
媒体種別	<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> その他 ()								
媒体名									
掲載・放送予定日時	<input type="checkbox"/> 掲載	年	月	日 (曜)	時	分			
	<input type="checkbox"/> 放送	年	月	日 (曜)	時	分			

ご連絡先	担当者名	
	社名・部署名	
	住所	
	電話番号	
	FAX	
	E-Mail	

* 企画内容によってはご要望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

* 作品の著作権保護や出展作品のクレジット確認等のため、展示風景や作品の画像使用にあたっては、紙面掲載、番組放送前に原稿を確認させていただいております。校正段階での原稿・映像等を事前に広報専用メールへご提出ください。

* 掲載媒体を1～2部、もしくはURL、同録 (DVD、CD) をお送りください。

〈取材についてのお問い合わせ〉

兵庫県立美術館 企画・広報担当 (政岡・東原・成松)

〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL : 078-262-0905 FAX : 078-262-0903 Mail : press@artm.pref.hyogo.jp